

第9章

史跡狭山池の管理・運営及び体制整備

137

第1節 管理・運営及び体制整備の方向性…………… 139

第2節 管理・運営及び体制整備…………… 139 - 140

史跡の保存活用については、担当個人の知識や経験に頼ると限界が生じることもあるため、常に連絡、相談できるような協力体制を築くことが大切である。史跡周辺の関係する地方公共団体との連携は勿論のこと、専門知識や技術等の提供を受けられるように博物館・大学といった研究機関と連携をとることのできる体制を整えておくことも重要である。

所有者、地方公共団体だけの保存活用には、限界があるため地域住民の協力を得て保存・活用を実施することが望ましい。地域との連携が主体であり、継続的に協働実施されることが望ましい。

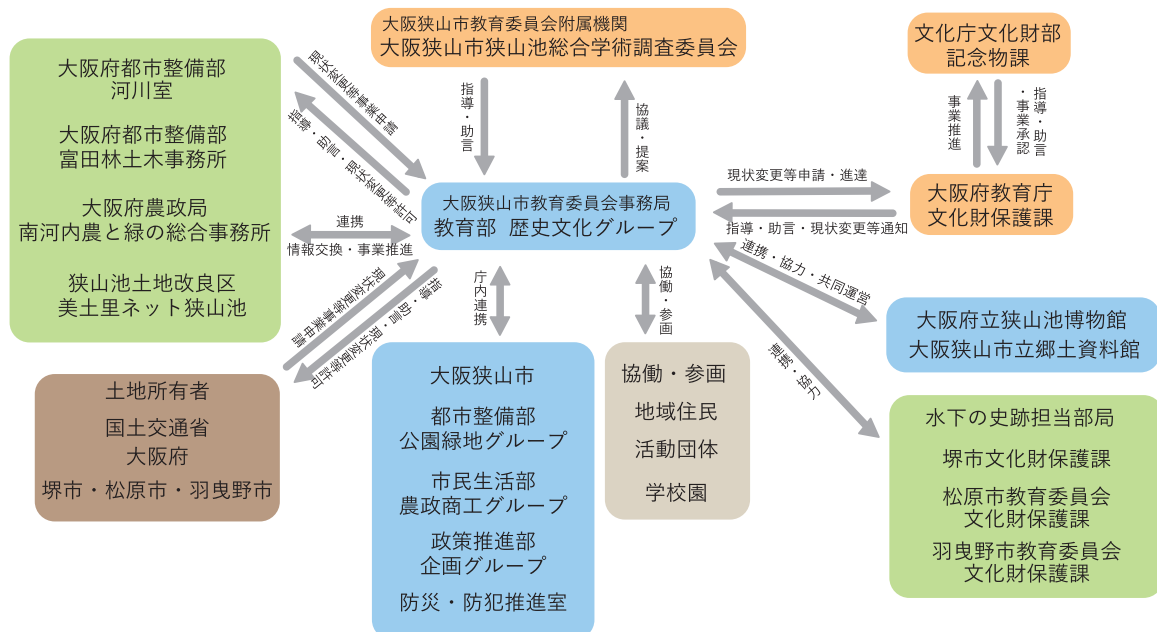
第1節 管理・運営及び体制整備の方向性

- ① 狭山池の各機能の管理団体との継続可能な連絡・協力体制を構築する。
- ② 狭山池で活動をおこなう各種団体と継続可能な連絡・協力体制を構築する。
- ③ 専門知識を持つ学識経験者及び関係機関等と情報交換を行う場を継続的に持つ。
- ④ 史跡狭山池の管理団体として、活動可能な人員を配置する。

第2節 管理・運営及び体制整備

A. 史跡狭山池の管理運営体制

史跡狭山池は、現在も続く機能を維持するため、管理者や管理団体が複数存在する（第2章第3節（2）管理者について 参照）。大阪狭山市教育委員会歴史文化グループは、史跡の管理団体の管理業務を担う部局として、大阪狭山市役所内での連絡協力体制を構築するとともに、狭山池の持つ各機能の管理者、管理団体と継続的な連絡・協力体制を維持するように努める必要がある。下記の図は、保存管理を中心とした組織図である。下記の体制を維持し今後の保存管理を進めていく。

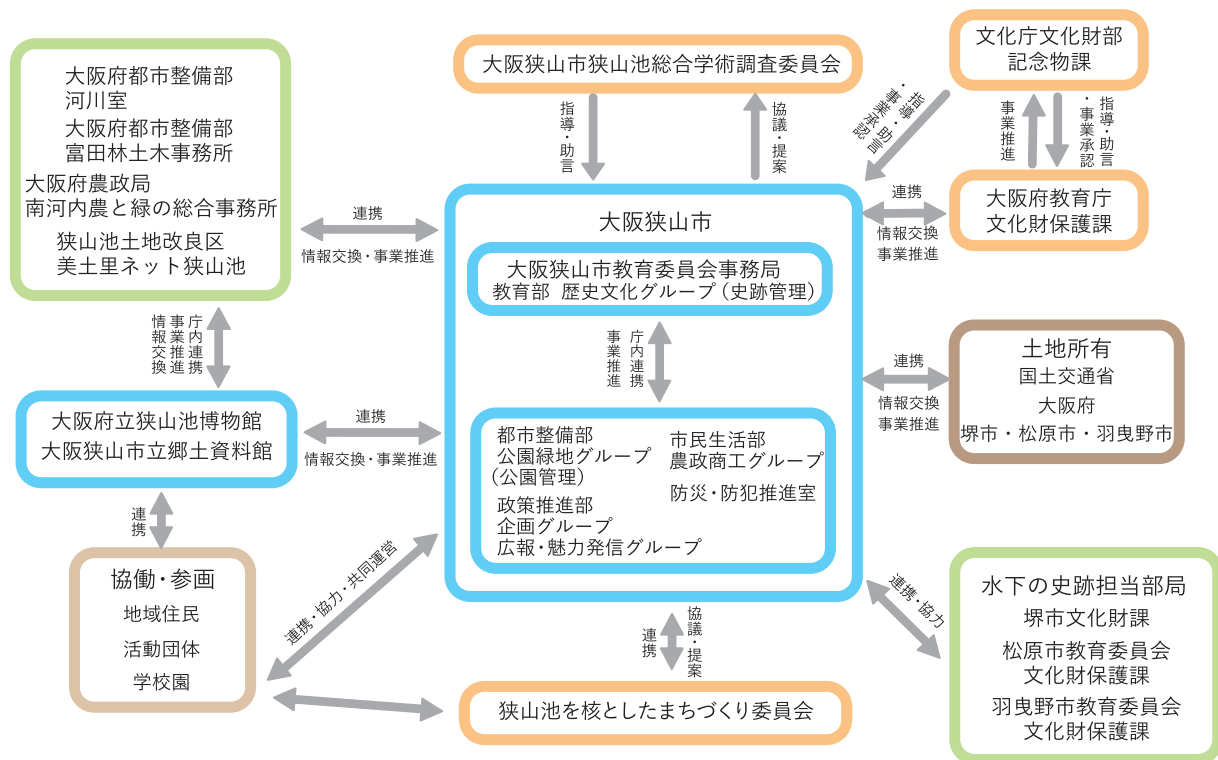


史跡狭山池管理・運営体制の組織図

B. 史跡狭山池の活用及び事業推進に関する連絡体制

史跡狭山池では、現在も多くの関係者が狭山池の持つ様々な機能を活かした事業を推進している。史跡の管理団体の管理業務を担う部局として大阪狭山市教育委員会歴史文化グループでは、従来からある機能を活かした様々な事業についての他、史跡狭山池の活用及び各種の事業実施にあたり、関係する多くの団体、管理者とともにその事業を推進していくことが望まれる。

史跡狭山池を継続的に維持管理し、活用していく事を目的として、下記図のような連絡体制を構築し、関係各所との協力体制を維持して行く事が重要である。



史跡狭山池活用・事業推進に関する連絡体制